

流通とS C・私の視点

2006年1月1日

視点 (591)

I Saw All America (その48) !!

- メイシーズの国民的百貨店化 -

アメリカの百貨店業界は、フェデレーテッドグループ(1位)とメイグループ(2位)が統合したため、これまでの2.5企業体制から、1.5企業体制となりました。

すなわち、フェデレーテッドが売上高30,071百万ドル(2004年実績)となり、2位のディラーズ(7,863百万ドル)、3位のノードストロム(7,131百万ドル)、4位のサックス(6,055百万ドル)、5位のニーマン・マークス(3,545百万ドル)となり、大きく2位以下を引き離しました。1位は圧倒的な位置づけのフェデレーテッドであり、規模は小さいが特色あるノードストロム、サックス、ニーマン・マークスが0.5企業を形成しています。

アメリカの総合業態のグレードを簡単に示すと次の通りです。

グレード	百貨店名
超上グレード業態	ニーマン・マークス
上グレード業態	サックス・フィフス・アベニュー
中上グレード業態	ノードストロム、ブルーミングデールズ
中中グレード業態	メイシーズ、ディラーズ
中下グレード業態	J Cペニー、コールズ、シアーズ
下グレード業態	ウォルマート、ターゲット

この中で、フェデレーテッドグループはメイグループを買収し、買収した百貨店をすべてメイシーズに業態転換させることになり、その結果、850店舗のメイシーズが生まれることとなります。アメリカの百貨店は、日本の百貨店のように食品からすべての生活用品をアップグレードで提供する総合業態ではなく、ファッション(アパレルファッションとホームファッション)に特化したスペシャリティ百貨店です。特に、グレードとターゲットの違いにより互いに棲み分けて、多核型R S Cの核店の1つとして生き残っています。ここで、注目すべきは、中の中の百貨店業態であるメイシーズが850店舗体制となることです。そこで、企業別ではなく、百貨店の業態別店舗数を示すと次の通りです。

	グレード	百貨店の業態	店舗数
百貨店	超上グレード業態	ニーマン・マークス	35店舗
	上グレード業態	サックス・フィフス・アベニュー	62店舗
	中上グレード業態	ノードストロム	90店舗
	中中グレード業態	メイシーズ	850店舗
P D S	中下グレード業態	J Cペニー	1,083店舗
総合D S	下グレード業態	ウォルマート	5,607店舗

百貨店の業態の中では、中中グレード業態であるメイシーズは850店舗であり、圧倒的に多く、超上グレード業態のニーマン・マークスは35店舗、上グレード業態のサックス・フィフス・アベニューは62店舗、ノードストロムでさえ90店舗です。日本の百貨店はブランド志向や高級志向が強く、アメリカの百貨店と比較するとノードストロム(中上グレード業態)からサックス・フィフス・アベニュー(上グレード業態)の位置づけになります。アメリカの多核型S Cでは中下グレード業態のJ Cペニー(あるいはシアーズ)を下位レベルの核店舗とし、ノードストロムやサックス・フィフス・アベニュー(あるいはブルーミングデールズ)を上位レベルの核店舗とし、その2つの核店をつなぐ役割を果たすメイシーズ(あるいはディラーズ)を中位レベルの核店として多核型S Cの核店揃えを行います。このつなぎの核店舗としての位置づけが大事であり、J Cペニーの上にノードストロムやサックス・フィフス・アベニューがあると、中間の業態がないためグレードの連続性がなくなります。日本でR S Cを開発する場合、GMS(アメリカではJ Cペニークラス)と百貨店(日本の百貨店はアメリカではノードストロム及びサックス・フィフス・アベニュークラス)の2核店体制となり、中位レベルの核店舗が存在しないため、百貨店が客寄せパンダとなり、GMSは漁夫の利を得ることとなります。アメリカのメイシーズに匹敵する中中グレード業態は日本で最大、200ヶ所(850店舗÷2×50%)成立する可能性があります。日本で中の中グレードの百貨店の可能性はマルイ、サティ、セブン&アイグループのGMSや百貨店(西武、そごう)です。現在、S C方式でメイシーズの擬態をつくっているのが、イズミのゆめタウン(GMSを基軸にメイシーズを構築)や福田屋百貨店(百貨店を基軸にメイシーズを構築)です。当分は、業績はいいはずで。

(株)ダイナミックマーケティング社³
代表 六 車 秀 之